

ご挨拶

開創四百五十年記念事業も、あと一息で終了致します。幸いお檀家さまからたくさんの方のご寄進いただき、境内の整備も進み、池の防水工事、避雷針の設置工事なども完了しています。皆様のお力を結集して良いお寺が出来たものと心より感謝致します。

しかしながらまだまだ完成とはいえません。これから進化を続けていかなければと考えています。またこの伽藍をどのように使うかがこれからの課題です。皆様のさらなるご協力をお願い致します。なお仮本堂建設用の材木はすでに用意してあるのですが、建設資金がないため、最後のお堂は現段階ではひとまず凍結とさせていただきます。

お堂が整ったところで長年の悲願であった、ご本尊様の修理に取り掛かることといたしました。三百年近く皆様のご先祖様と共に歩んできたご本尊様を、ぜひ皆様のお力をもちまして修繕していただきたいと思ひます。開創四百五十年記念事業のご寄進も終わらぬ内で誠に申し訳ありませんが、近年傷みが激しく緊急性が生じておりましたので、ご理解ご協力賜りたくお願い申し上げます。本誌中でご案内しておりますが、強制ではなく自由にお申し込みいただく形をとりますので、重ねてよろしくお願い致します。

お盆から秋のお彼岸へと皆様のご参詣をお待ちしています。

合掌

住職 岡本和幸



■ 桁を刻む方丈



■ 回廊へとあがる橋を造る方丈



■ 山門からの階段作りをおこなう方丈



■ 床板を貼って最後の調整をする方丈



■ 山門から望む橋



■ 踏面の土を締め固める諏訪師

行事報告

〔檀信徒〕

◆春季彼岸会法要

平成二十一年三月二十二日（日） 春季彼岸会法要をおこないました。



書院での法要の様子



三遊亭時松さん

法要後はお馴染みの落語です。
お題目は「短命」と「花見酒」

◆花祭り法要

平成二十一年五月十日（日） お釈迦様の誕生日をお祝いする花祭り法要をおこないました。



婦人会のご詠歌



□お檀家さんが食事を作ります。
□酪農を営むお檀家さんお手製の牛乳羊羹（左）



〔縁の会会員〕

◆七日法要

午前は当月にご逝去された会員の方々の月供養と、新しい会員の授戒式をおこないます。午後は各月季節の行事をおこなっています。



仏殿での法要の様子



昼食は、寺で作ったお米や地元野菜など、スローフードな精進料理を頂きます



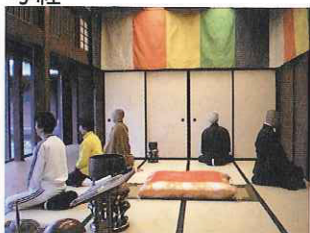
- 四月の植樹祭（上）
- 五月の里山散策（中上）
- 六月の写経（中下）
- 七月の新盆供養（下）

◆寺のある暮らし・春

里山散策、農作業、掃除・等、色々な作業の中から好きなものを選び体を動かしたり、坐禅や写経をおこないながら、のんびりとした時間を過ごしていただきました。



写経



坐禅

真光寺日記

ここでは真光寺に関する色々な出来事をご報告していきたいと思
います。第一日目は四月より赴任された諏訪師をご紹介します。

* * *

四月より真光寺でお世話になっている諏訪孝昌(すわこうしょう)
と申します。福井県、曹洞宗大本山永平寺から車で40分程度行つた
旧武生市というところにあるお寺の次男坊として生まれました。

高校卒業までを福井で過ごし、大学は単身、山口の大学へ進学し
ました。その後田舎暮らしが一転して、東京のど真ん中、西麻布に
ある大本山永平寺東京別院長谷寺専門僧堂に上山しました。西麻布
での修行ならば楽しかったでしょう?と、よく聞かれますが、修行
中は特別な時を除いて、決して敷地外には出られません。ごみ捨て
場から六本木ヒルズが見えますが全くの異空間なのです。

さて、厳しい修行期間が終わり、長谷寺を下山した後、有難い御
縁を頂き、東京四谷の東長寺でお手伝いさせて頂くことになりました
た。が、ちょうど一年前、真光寺では新伽藍が完成し、旧本堂から
引越しをする時でした。直ぐさま猫の手要員としてこちらに通わせ
て頂くことになりました。

十月には東長寺に一旦戻ったものの、この四月より正式に出戻つ
て参りました。

真光寺には、法事・掃除以外にも山門階段・庭池造り、草刈・田
んぼ作業等、実に様々な業務があります。『お坊さんは何でもでき
ないといけない』という言葉をよく住職が言われますが、住職はま
さに有言実行で、色々なことを自らの手で実行されます。一方私と
言いますと、小学生の頃は、雨が降つていようと傘もささずに遊
んでいましたし、中高生はサッカー部でしたので雨の中でおかま

いなしで外を走り回っていたのですが、何故か大学・東京に出てき
てからは、雨には少しも濡れたくないし、汗だつてあまりかきたく
ない、そんな風になっていました。しかし、真光寺での外作業では
汗を沢山かきます。しかも晴れば日差しが暑過ぎるのでむしろ曇
り、いや小雨が降っていて欲しいくらいです。こういった感覚を取
り戻せたのも、周りに溢れている自然のおかげではないかと感じて
います。この様な優しい雰囲気に関わられながら仕事ができることに
感謝したいと思います。

最後に私事でございますが、FOTOGRAPHに長男(第一子)が誕生
しました。名前を『悠真』(ゆうま)と名づけました。とても可愛い
です。よく親バカだと言われますが、気に
しませんよ! やっぱ可愛いですからね。
ともあれ、親子共々何卒ご指導お願いい
たします。



「袖ヶ浦イベントガイド」

○八月一日(土) ※雨天の場合は翌二日

第八回袖ヶ浦市民ふれあい夏祭り 東京ドイツ村

○八月二十三日(日)

万葉植物と公園の花Ⅰ アクアラインなるほど館ロビー展



※詳しくは観光協会もしくは袖ヶ浦市hpをご覧ください。

◆お寺に置いてあります
袖ヶ浦市の観光情報が満載の

「ツーリストガイドマップ」

・袖ヶ浦市内のショップを回って景品が貰える

「スタンプラリー」



袖ヶ浦散歩

真光寺のある袖ヶ浦市内や隣接する市町村を巡って、文化や歴史、お食事処など様々なものを紹介していききたいと思います。

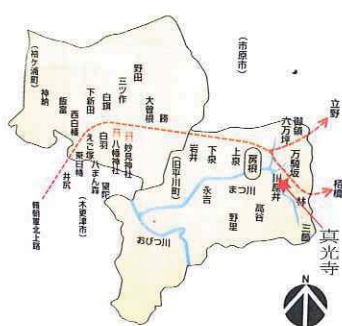
第一回目は、意外と知られていない「古道・鎌倉街道」を訪ねてきました。

◇鎌倉街道の旅

真光寺からほど近い場所に、文化庁選定の「歴史の道百選」に選ばれた「鎌倉街道・上総道」があります。

そもそも、関東平野には幾つもの鎌倉街道が通り、ガイドブックなど、その多くを本屋さんの旅のコーナーで見ることが出来ますが、ここ房総の鎌倉街道を案内した本は一般的な本屋さんなどには全く無く、鎌倉街道が在ること自体を知らない人が多いのではないかと思います。

しかし、鎌倉街道に関連してこの地域には、野田字鎌倉街道、蔵波字鎌倉街道、川原井字鎌倉通、市原市中高根字大街道、市原市立野字鎌倉街道など、それに縁のある地名が多く伝わっています。



■源頼朝北上経路図

古道、それも「歴史の道百選」に選ばれた道ですから、どんな道だろうと期待に胸躍らせて訪ねたのですが、その歴史を表すようなものは極めて少なく、ただただ畑の中の農道といった感じでした。由緒ある「御所覧塚」に立つ指標も錆びで朽ち、辛うじて文字が

読める程度・・・。

しかし、真つ直ぐと続く直線道は古代駅路を想わせ、今から八百年以上も昔、源頼朝が平家打倒のため上総国を通過したのだと、少々歴史ロマンの想像を自ら掻き立て、想いを巡らすにはちょうど良いのではないのでしょうか？



■七人堀込遺跡付近にある案内板



■御所覧塚
治承4年(1180)に頼朝が塚上で武士達を闘兵したと伝えられている



■石仏兼道標



■農道の中の鎌倉街道

※本記事を作成するにあたり、山羽孝氏が作成した資料を参考にさせて頂きました。鎌倉街道に関する貴重な資料と深い考察からなっています。興味を持たれたかたは是非アクセスしてください。

http://www.asahi-net.or.jp/~AB9T-YMH/chiba_folder/kazusal

ご本尊様大修理

この度ご本尊様はじめ、山内の仏様を修理することと致しました。当山の仏様はおおむね江戸時代末期、二百五十年から三百年前の仏様ですが、虫食いや、表面の金箔の剥離など傷みが激しく、心を痛めておりました。さらに新しい伽藍ができて、環境がかわり、表面の漆の剥離まで見られるようになり緊急に修繕しなければ、ボロボロになってしまうところまでできてしまいました。

長年檀信徒の皆様と共に歩み、お守りいただいたご本尊様ですので皆様のお力をお借りして修理致したく存じます。強制ではありませんので、自由な金額でお申し込み下さい。なおご寄進いただいた方は、お名前を記しご本尊様の体内又は台座におおさめ致します。



●ご本尊 釈迦牟尼仏立像
修理費 560,000円



●本尊脇侍 月光菩薩立像 (上右)
修理費 165,000円



●本尊脇侍 観世音菩薩立像 (上左)
修理費 160,000円



●ご開山尊像
(道元禅師坐像と称して
いたもの)
修理費 210,000円



●地藏菩薩尊像 (左)
修理費 165,000円



●薬師如来坐像とお厨子 (右)
修理費 180,000円

■六体復元修復
合計 1,440,000円 (税別)

◆見積り先(有) みやこ仏像
■申し込み方法

□ご寄進金額 自由です。

□締切 平成二十二年正月まで

□お申込み先 真光寺事務所までお申し込み下さい



冬の山の手入れイベント「風景を開きませんか？」(全4回)の最終回は笹の刈り開きとシイタケの菌うちをしました。1～3回でも自然観察や間伐した木を材にして道を作ったり、チェーンソーを使って木を切ったりと、実際に山に入り作業をして汗を流し、冬の里山を満喫しました。

[ちば里山センター共催イベント]



1. 一面笹の所を刈ると風景が広がっていきます

2. 女子だって山に入るのです

3. シイタケの菌打ち。山で取った原木にドリルで穴を開けます

4. 穴に菌を打ち込んで、木陰のある少し湿った場所に置いておきます

ビフォー & アフター



1. 斜面を削って間伐材で土止めを打ち、道のできあがり！

2. 土が崩れてしまっていたところもちゃんと通れるようになりました

3. 笹に覆われうっそうとしていたところを、刈り開きました

4. 左手は湿地で足がはまってしまうので、ここにも道を作りました

里山活動くお米作りく



10



6



4



2



5



3



8

かすま 上総自然学校

さあ、いよいよ今年も始まりました！谷津田のお米作り、今年で6年目に突入です。今年は更に田んぼも増え、古代米も育て始めました。農業ブームも手伝ってか？参加者も増え、よりいっそう賑やかな上総自然学校となりました。そんな賑やかな様子をぜひご覧ください

くろぬ 4月 畔塗り

(田の泥を畔に塗りつけ水漏れを防ぎます)

1. 種籾を蒔いて苗作りからスタート！
2. 足が抜けない…。歩くだけでも一苦労
3. 気分は田んぼの左官屋さん
4. 大きすぎる!?タケノコに大興奮

5月 田植え

5. 「マイ・苗」の進呈。4月に蒔いた種がこんなに大きくなった！
6. 苗を田の泥にずぼずぼと押し込んでいきます
7. 子供達にとって田んぼは絶好の遊び場!?
8. 抜き足差し足でそお〜っと一歩ずつ進みます
9. 雨天の日もありました。雨でもへっちゃら〜の子供達

6・7月 草取り

10. 今年から田んぼとして復活した谷のトレッキング。ここは古代米を植えています

11. 草を抜いたところはすっきりきれい！これがまた気持ちいいのです
12. 稲と稲の間に生えている草（主にコナギ）を根気強く抜いていきます
13. 縦横無尽に田んぼを走り回る子供達。何往復してたかな…？
14. 水路にはいろんなヤゴやお魚が棲んでいます

4月 自然観察会【千葉自然学校共催イベント】

15. 今日のおかずをゲット！パパもにっこり
16. 水路を探索中。はてさて何がいるかな…？
17. 「同じタンポポでも昔から日本にあるのと、海外からやってきたタンポポがあるんですよ」
18. アカガエル（下）とアマガエル（上）



自然観察を通じて

今年の春は、真光寺山境内地内の保全林に、そして大月川上流の谷津田にも、いつもと変わらぬ表情でやってきました。

そしてそのかすかな芽吹きは、樹種により、時の変化により、刻々とその様相を変えていきます。自然は、その時に呼応して様々な命を育み、更なる命の誕生を促すのです。

まずは、食物連鎖のピラミッドを思い浮かべて下さい。その頂点にある植物は、太陽の光を受けて光合成し、生きるためのエネルギーを自ら生産する自然界における唯一の『生産者』なのです。植物は、二酸化炭素を吸い、酸素を出し、根は大地をつかみ、水を溜め、流水を浄化する働きもします。何よりも、多くの昆虫や鳥や動物たちの餌となり棲みかとなつて命を守っているのです。私たち人間も、その植物の恩恵をいただき、命をいただくことにより生きています。

その『生かされている』という関係を、子どもはもちろん大人にも、もう一度、謙虚な思いで振り返ってほしいのです。

自然観察をすることにより、その自然のなかの一つの出会いが、その人の考え方の大きな示唆を得るキッカケとなるかもしれません。

思いがけない自然との遭遇。キレイな花との出会い、美味しいと思う実との出会い、感動する風景、興味をひく昆虫、谷に響く野鳥の声など、各人各様に受けとるものは様々とは思いますが、そうした感動に出会うことにより、その人の自然に関する思いは、それ以前とは、変わってくるはずです。様々に異なった生物がいること、つまり生物の多様性が認められることが、人間という生物にとっても、棲みやすい環境となっている証拠であるところご理解いただければ、幸いです。名前を覚えることが観察会の目的ではなく、新鮮な感動との出会いが、

自然を大切にしようという心に通じるものと確信しています。

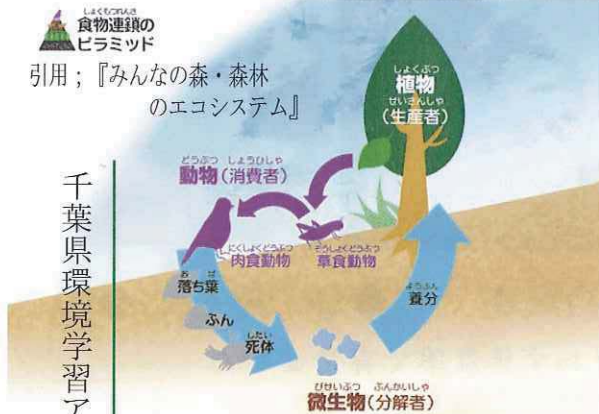
そして、豊富な自然体験が、命の大切さとはかなさと、思いやりの心を育てるものと思います。と同時に、守るべき命と淘汰・排除される命の存在を気付かせるきっかけとなっていくのではないでしょう。

食物連鎖の台座に当たる部分の『分解者』とは、私たちの大地に接する片足の面積の下に、三千とも一万五千ともいわれる土壌動物や微生物の命の存在として、確固たる地位を占めています。彼らが主に私たち動物の懺悔の過程とも思われる排泄物を分解し、大地を作り上げています。さらに自然界は、すべての命が次の命へと継承されています。つまり、無駄な命はないことであり、無駄な死もないということです。

せめて生きているうちに、何か自然界のためになる自分なりの行動を見つけ、実行したいものですが、その『何か』を見つけないことが、ほんとうの意味での自然観察会の目的といえるのかもしれませんが。そして、来年も、その翌年も、ずっと変わらぬ春の訪れを、迎えたいものです。



引用；『みんなの森・森林のエコシステム』



千葉県環境学習アドバイザー

山口由富子



「修証義」に学ぶ

真光寺住職 岡本和幸

◆猫たちの夏◆

夏は生き物たちの季節です。動物や植物、特に虫たちは夏になると活発に活動します。毎年この季節になると、私の住んでいる真光寺では深刻な問題が発生します。それは猫たちがさまざまな獲物を持ち帰るということです。

真光寺には猫が五匹います。ほとんどが捨て猫出身で、風邪をひいていたり栄養失調だったのを拾って毎日のように獣医さんに連れて行き、三時間おきに猫用ミルクを飲ませ、湯たんぽで暖めながら育てた猫たちです。そのようにして育てた猫は十匹以上いますが、里子に出したり、交通事故で死んだり、行方不明になったりで、現在五匹に落ち着いています。

猫にもいろいろな性格があつて、特に食べ物の好き嫌いははっきりしています。「ねこ」という言葉はねずみを取るという意味で、俗に鳥を取るのを「とこ」、蛇を取るのを「へこ」などといいます。真光寺の長老猫ナムはねずみを取るのが得意でしたが、今は歳を取ったのであまり連れてきません。チビは都会で生まれ、成猫になつてから連れて来られたため、獲物を取ることはしません。繊細な猫で、ほかの猫との共同生活からくるストレスによってかなりやせてしまいました。アミはお寺の屋根の上を縄張りに行っているのですが、狩りはトカゲ専門で、鳥を取る「とこ」ではなくトカゲの「とこ」です。チャムはすぐ膝に乗ってくる甘ったれ猫の反面、一度出かけると一週間家をあけることもあります。モグラ狩りの名手はモコで、

まだ生きているモグラを取ってくると大騒ぎになります。モグラは暗く狭いところを好みますから、家具を動かしてようやく手負いのモグラを捕まえ、外に追い出します。唯一のオスであるマロは最年少の幼猫で、餓死寸前の状態で保護しました。カエル等についている寄生虫がいたことから、小さいながらも必死でカエルを取って命をつないでいたのでしょう。今もカエルが大好きな「かこ」ですが、先輩たちから学んで、小動物から虫までさまざまな獲物を取ってきます。一度蛇を連れてきたのには本当にまいってしまいました。ある人は飼った猫が蛇をくわえて蒲団にもぐり込んで来たのに気付かず、朝まで蛇といっしょの蒲団で寝ていたそうです。私がつとも恐れているのはこれです。

猫たちは、生まれてしばらく親猫の乳を吸い、親猫の取った獲物とじやれ、それを食べた経験を持っています。その時の経験によつて好みの獲物が決まるといいます。よく食料獲得という目的以外に殺生をするのは人間だけだと言われますが、捕らえてきた獲物をいつまでもあそんでいるのを見ると、猫も半分遊びで獲物を取ることもあるようです。また、食べるためにつかまえて来ても、おいしい部分だけを食べ、残りは放置するのですから同居している人間はたまりません。

彼らと一緒に自然の豊かな環境の中で生活していると、いやでも日々そういう生々しい場面に遭遇することになります。しかし、座布団の上などで大の字になって無防備きわまりなく寝ている姿を見ると、野生を残しながらも人間を信じてのびのびと生きている猫という生物の不思議さを改めて感じます。

捨て猫のシーズンには主に春から秋にかけてです。この間は、どうか今シーズンは猫を拾わずにすみませうにと、祈るような気持ちでいます。一匹や二匹の捨て猫を拾うことで、すべての猫の命を救えるはずもないのですが、縁あって保護した猫たちが元氣

になつて飛び回る姿を思うと、やはり助けずにはいられませんか。

農村地帯では、猫に去勢・避妊手術をする家も少なく、子猫が生まれるとすぐに穴を掘つて埋めたり、川に流したりする人もいます。どうせ飼えないのだから、猫に物心がついて愛情がわいてしまう前に処置してしまおうという理由からのようです。ヨーロッパなどでも、人間が飼いきれない猫や犬は飼い主の責任において安楽死させるということが行われていると聞いたことがあります。猫や犬はもちろん、馬や牛なども身近にいた農村だからこそ、そういう発想があるのかもしれませんが。

そんな残酷なことではできないと手をこまねているうちに、あつという間に猫がねずみ算式に増えてしまい、結局車で捨てに行く人もいます。犬や猫を捨てて、きつと誰か親切な人が拾ってくれるだろう、また野良になつてもなんとか生きていつてくれるだろうというのは日本的な甘えからくる考え方だという人もありますが、ともかくそうやって捨てられた猫たちを拾つて育てているのかと思うと複雑な気持ちになります。

生命の問題というのは本当に難しいもので、動物の命を人が左右することが正しいとか間違っているという判断は簡単には下せないように思いますが、われわれ人間は他の生物の生命を、それこそ食べるという目的以外においてもほしいままにしているという事実があるのですから、人間には猫を残酷だと言う資格はないように思います。

◆命の連鎖を自覚する◆

以前、朝日新聞に死刑制度についてのコメントが掲載されていた。先進国の中で死刑制度を容認しているのは日本だけだそうで

す。ドイツでは第二次世界大戦であまりにも多くの人を殺した反省から、人が人を殺すことは明らかに誤りであるとして、戦後までもなく死刑制度を廃止したとありました。日本も戦争で多くの人々が死に、また多くの人を殺しました。しかし死刑制度を見直す声が高まる気配はありません。その日本に三百年の長きにわたつて死刑制度を実質廃止していた時代があつたというのです。それは平安時代、国家仏教が全盛の頃であつたという記述であつたと記憶しています。仏教という宗教は、縁による命の成り立ちを説きます。条件と調和によつて命があるというのです。仏教では命をどのようにとらえているのでしょうか。

『修証義』の第一節は、「生を明らめ 死を明めるは仏家一大事の因縁なり」という言葉から始まっています。漫然と読めばそれまでのことですが、この文章の中には生きていくことの意味が示されているということは、前回触れた通りです。続く第二節を読んでみましょう。

人身得ること難し、仏法値うこと希なり、今我等宿善の助くるに依りて、己に受け難き人身を受けたるのみに非ず、遭い難き仏法に値い、奉れり、生死の中の善生、最勝の生なるべし、最勝の善身を徒らにして露命を無常の風に任すること勿れ。

人として生をうけることは難しく、さらにまた仏法にめぐりあふことはまれであるにも関わらず、今こうして宿善の助けによつて人間として生まれ、また仏の教えを聞くこともできた。そのようなかげがえのない、また、はかない命を、無自覚にむなしくしてはいけないと説かれています。

「宿善」は宿善根のこと、私の命につながっている古来からの命の連続性とも言えましょう。過去の先祖たちの命

を経て誕生した生命は、動物や植物などの命をいただかなければ維持できません。そればかりではなく、まわりの人の愛情など、維持できません。そればかりではなく、まわりの人の愛情など、さまざまな命の力が必要です。そういう命の力を借りて、今日私たちは生かされているのだというのです。そのように考えると、今あるこの命の根底には、何億年の時を紡いで続く命の根があるということが理解できることと思います。

善は善悪の善ですが、人の計らいの中の善し悪しではなく、そういう次元を越えた自然の摂理の中でのよい力という意味です。どんなに医学が発達しても、ちよつとした医療ミスから命を落とすこともあるように、やはり命を繋いでいくことは至難の業なのです。

「最勝の生」「最勝の善身」というのは、そういう奇跡的な確率でいただき、また現在に到るまで生かされている、このかけがえのない命という意味です。

「仏法」の「仏」というのはさととりであり、「法」というのは上から下へ水が流れるような自然の摂理という意味ですから、自然界での当たり前の出来事ということです。「受け難き人身を受けたるのみに非ず、遭い難き仏法に値い」というのは、特別に仏教を信じるとかいうことではなく、この世に生まれ出でて、自然の中で命を紡いでいける環境にいることの有り難さと考えるとわかりやすいと思います。

宿善は、先祖と呼び換えてもよいかもしれませんが。私たちが先祖を供養するとき、自己の存在が様々な縁によって成り立っていることをどこかで意識しているのではないのでしょうか。

先日、自宅を新築されたお檀家さんがお寺を訪ねられて、「私たちだけいい家に住んでいるのは気持ちが悪いです、墓地を改装してきれいにしたい」と言われました。今日家があるのも、土地があるのももちろん命あるのも、先祖のおかげという意識は、先祖崇拜の

根幹かもしれません。先祖供養ということになると親戚縁者が集まり、大勢の近い人々がいることに気づかれます。さらに先祖の供養といいながらも、ご馳走を食べるのは先祖ではなく、集まった親類縁者と家族です。

かつて供養の席にはお餅がつきものでした。ぼた餅、おはぎという、今日では珍しくもありませんが、かつては大変なご馳走でした。白米もなかなか入らない中で米をつき、砂糖を買ってこれを作るのはごく限られたときだけでした。供養と称して自分がめったに食べられないご馳走を食べる習慣も、先祖を通して自らの命をいとおしむという自然な感覚なのかもしれません。

昔から行われている先祖供養という小さな催しは、あんがい自分の命を支えるさまざまな要件への気づきと、命の連鎖、つまりここである宿善を自覚させる機能を持っているのかもしれませんが私たちはそうやって自分の心を謙虚にして、生きる力を得てきたのではないのでしょうか。

◆自らを愛すること◆

この第二節は自らの命を愛しなさい、大切な大切な自分を愛しなさいという呼びかけともいえます。私たちは一時的な感情の中で自らの命をとらえていることが多いのではないかと思います。さまざまな助けによって生きている自分というのは、貴重で有り難くて素晴らしい存在なのだよというこの呼びかけを受け止め、自分の命に感謝すれば、自らを愛し、そしてそれを支えてくれるすべての命を愛することができないかと思えます。

今日少年犯罪や、不登校の問題が出ると、自己肯定できない子供たちの存在が指摘されます。自分が何者か、何のために生きて

いるのかわからない、「生まれてこなければよかった」ということを言う子供たちが増えています。一昔前には親の愛情不足が自己肯定できない子供を生み出すと言われていたのが、今では愛情をたっぷり受けても自己肯定できないというのですから難しいものです。

たとえば子供がご飯を食べる。一生懸命に口に運んで洋服を汚す。子供は自分で食べたのだから誉めてほしい、誉めてもらうことで自分のしたことを肯定するわけです。しかし親は洋服を汚さないように食べるとしかる。これを繰り返すと自分自身の存在を否定されているような状態になるといいます。

十円玉と一万円札を並べて、さてどっちが大切なお金でしょうと質問されたとき、私たちは間違いなく一万円と答えるでしょう。

しかしある女の子は十円がもっとも大切なお金だといいます。なぜかと問うと、単身赴任のお父さんに電話ができるからという答えでした。世間の常識からすればこの子の答えは間違いですが、このような素直な心を認め、尊重することこそ必要ではないかと思えます。

人のおもいは、いずこへもゆくことができる。されどいずこへおもむこうとも、人はおのれより愛しい者を見いだすことはできぬ。それとおなじく他の人々にも、自身はこの上なく愛しい。さればおのれの愛しいことを知る者は、他の者を害してはならぬ。

これはお釈迦様の言葉です。私たちは感情や理性以前のところで、自分を守り、自分をいとおしんでいることに気付くことが大切なのです。

自分を愛せない人間に人を愛することはできません。自分を愛し、またそれを助けてくれるすべての命を愛し、千載一遇のチャンスとして与えられたこの一生を大切に生きてゆきたいものです。

(つづく)

上総自然学校イベントスケジュール

◇稲刈り

・平成二十一年九月二十一日（祝月）

・平成二十一年九月二十二日（祝火）

◇収穫祭

・平成二十一年十月十七日（土）

◇自然観察会

・平成二十一年十月二十四日（土）

◇森林整備

・平成二十一年十一月二十一日（土）

・平成二十一年十二月十九日（土）

※ご参加頂くには事前のお申し込みが必要です。

詳しくはhpをご覧いただくか、お電話でお問い合わせ下さい。



◇寺のある暮らし・秋

参加者は坐禅や写経などいくつかの行事に参加していただきます。また、里山散策などのイベントも用意していますのでそれに参加することもできます。時間の過ごし方は自由です。お寺に泊まり、ゆつくりとした時間をお過ごし下さい。

この機会にぜひ禅寺の生活を体験してください。

平成二十一年十月十・十一日（土・日）

参加費 六千円（一泊二日）

集合場所・時間 真光寺十一時

※電車で参加の方には送迎を致します。

行事予定

〔檀信徒〕

◇大門大施食会法要

平成二十一年八月九日（日）午後一時説教 午後二時法要
恒例の大施食法要を行います。お気軽にご参加下さい。なお卒塔婆の申し込みは地区役員またはお電話にてお願い致します。

●卒塔婆の申し込み方法（左記の情報を伝えて下さい）

○おまつりする方 先祖又はお戒名（俗名でも大丈夫です）

○お施主様の名前 お塔婆をあげる方の名前

※塔婆供養布施は一本三千円程度となっております。

◇秋季彼岸会法要

平成二十一年九月二十日（日）午後二時より

恒例の秋季彼岸法要を行います。法要終わって落語の予定。

◇婦人会ご詠歌練習日

八月四日（火） 九月 八日（火）・二十九日（火）

十月十三日（火）・二十七日（火） 十一月十日（火）・二十四日（火）

十二月 八日（火）：忘年会

※各回、午後八時より、十月からは午後七時半より行います。

（どなたでも予約なしで参加できます）

◇お寺掃除

八月二日（日）表場上・下 根澄山

〔縁の会会員〕

◇七日法要（打出し十一時） 季節の行事予定

八月「盂蘭盆会」 平成二十一年八月七日（金）

【午前】授戒式・月供養 【午後】大施食法要・新盆施食法要

九月「彼岸法要」 平成二十一年九月七日（月）

【午前】授戒式・月供養 【午後】坐禅又は里山散策

十月「収穫祭」 平成二十一年十月四日（日）

【午前】授戒式・月供養 【午後】収穫祭

十一月「植樹祭」 平成二十一年十一月七日（土）

【午前】授戒式・月供養 【午後】植樹祭

十二月「懺悔会」 平成二十一年十二月七日（月）

【午前】授戒式・月供養 【午後】大掃除

*昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話等でご予約ください。午前のみ・午後のみのご参加もできます。

*電車・バスでの参加の方には送迎を致します。（要申込み）

●送迎時間

□電車の方 JR内房線「袖ヶ浦」駅 10時10分着

□バスの方 【土日祝】品川発9時35分↓袖ヶ浦BT10時22分着

横浜発9時40分↓袖ヶ浦BT10時22分着

川崎発9時25分↓袖ヶ浦BT10時14分着

【平日】品川発9時25分↓袖ヶ浦BT10時12分着

横浜発9時30分↓袖ヶ浦BT10時12分着

川崎発9時15分↓袖ヶ浦BT10時04分着

□お車の方 10時40分頃までにお越しください。